

地域人材を活用した夏休み地域塾の取り組み  
 ー農家住宅納屋を活用した学童保育施設「つばめの家」の研究事例ー

準会員 ○後谷 一機\*  
 正会員 森川 真子\*\*  
 正会員 山本 幸子\*\*\*  
 正会員 中園 真人\*\*\*\*

学童保育施設 地域塾  
 納屋 空間構成  
 改修 空間機能評価

1. 序論

1) 研究背景

1997年に制定された児童福祉法により、放課後学童保育が制度化され、年々学童保育施設の数が増え続けている。

施設の整備が進む一方で待機児童数は約1万人と言われており、「施設の不足」「大規模化による弊害」を解消するために行われている入所児童数の制限等、施設を巡る問題が多い。

収容児童数40人以下の適正規模の施設整備を促進するためには、自治体の財政負担軽減のためにも民間を含めた既存施設の活用が重要な課題と考えられる。

2) 研究の目的

民間施設を利用した学童保育施設に関しては、「民間型学童保育施設における児童と床面積の関係」「民間型の特性を生かした学童保育施設計画の重要性」について論じた研究等があるものの、全体的には研究蓄積は少ない。

本報告は、まだ数として少ない民間施設を活用した学童保育施設の実例として、農家住宅納屋を改修した放課後児童クラブ「つばめの家」(写真:1~3)の利用実態調査を行い、夏休み期間中に開催される「地域塾」の全体像と使われ方の特徴について検討するものである。

2. 改修設計と空間構成

1) 改修設計

図1・2に既存平面図・改修後平面図を示す。

改修計画は施設運営計画(児童定員25名・指導員2名、平日:放課後~18:00・休日:9:00~18:00)を基本に、耐震補強設計及び改修予算を考慮し総合的に策定した。既存平面を活かす事を前提に、南側入り口にはスロープ、ミニキッチン等を有する「多目的室」、畳コーナーを有する「プレイルーム」、牛小屋部分を「サニタリー」とする平面構成とした。

2) 空間の領域構成

学童保育施設の領域構成を取り上げている既往研究には次のものがあり、宮本・岩淵氏は「学童保育施設における活動機能と平面構成(2007)」により平面構成の特徴の把握を、清水・小野氏は「学童保育施設の生活空間構成の実態(2011)」により室の領域構成における動・静領域の区分を行っている。

「つばめの家」の改修後の空間構成は既往研究で分類されている「2室3領域型」に該当する。この構成にする事で「改修設計後の空間構成における施設の既存プログラム」「遊び・生

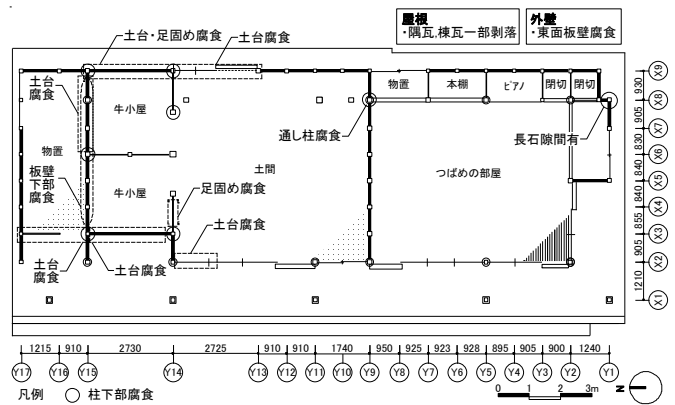


図1 既存平面図

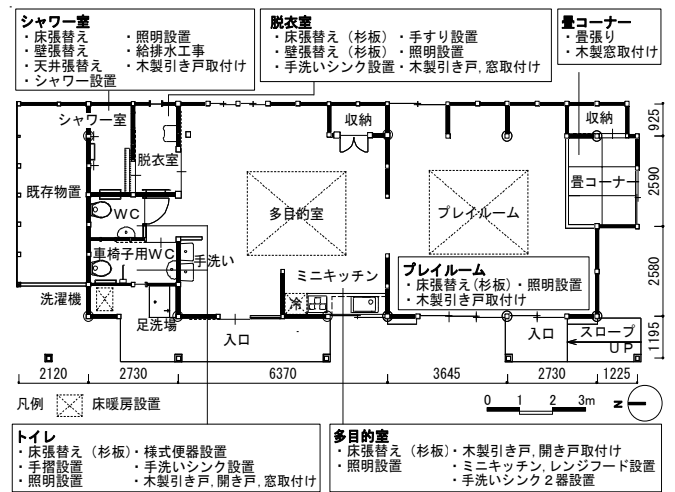


図2 改修後平面図



写真1 施設外観 写真2 プレイルーム 写真3 多目的室

活等の活動の分化」等が適切に行われる様に計画した。

3. つばめの家の夏休み

1) 調査概要

施設の利用実態調査として使われ方調査を実施した。施設を利用する全ての人を対象とし、終日5分間隔でその活動を平面図にプロットすると同時に、多目的室・プレイルーム

Private lessons efforts to utilize local talent in the summer.  
 Case study - After school care facility utilizing barn, "House Swallow"

USHIRODANI Ichiki, MORIKAWA Mako, YAMAMOTO Sachiko, NAKAZONO Mahito

表1 夏休み全日程のプログラム

平日	午前	地域塾	午後	プール	9
		地域塾		自由遊び	14
		自由遊び		プール	1
		自由遊び		自由遊び	4
土曜日(地域塾・プール無し)					4
夏休み児童預かり合計日数					32
日曜日・休み					10
計					42

にビデオを設置し、写真撮影、更に会話の記録を行い活動内容をまとめた。調査期間は2011.07.21～08.31で、児童の夏休み期間の42日間にわたり実施した。

2) 夏休みの活動

夏休みの日常の典型は図3に示す通り、「自由時間-勉強-自由時間-おやつ-自由時間-地域塾(4章にて後述)-自由時間-昼食-自由時間-おやつ-掃除-自由時間」と構成される。

表1に夏休み全日程の集計、図4に夏休み全日程のタイムスケジュールを示す。児童の夏休み全42日の内、施設は32日間開所されている。地域塾は休日を除く32日の内23日間、2/3の割合で行われている。又7/29～8/11の9日間、児童の通う小学校のプールが解放されているため午後のプログラムはプールとなっている。午前午後のプログラムが共に自由遊びとなっているのは、全32日の内8日間のみとなる。

4. 地域塾

1) 地域人材を活用した夏休みの取り組み

放課後児童クラブ「つばめの家」では夏休みを利用し、施設に通う児童と地域住民の交流を図る「地域塾」を開催している。子ども達は夏休みを通して様々な体験をし、講師として招かれた地域住民は各々の得意とする分野を披露・広める場となっている。これは社会福祉協議会に属する地域共生ホームが運営する学童保育施設ならではの取り組みで、他の大多数の学童保育施設には見られない有意義な取り組みであると言える。

2) 活動内容

地域塾はそれぞれ、講師が話を聞かせたり絵本を読み聞かせて交流する「お話し系」、習字や英語等の体験を通して勉強をする「勉強系」、講師の指導のもとテーマの物を作る「工作系」、歌や踊りを楽しむ「音楽系」、体を使って遊ぶ「運動系」、施設を離れ活動する「野外塾」といった6つの系に分類できる。

表2に分類されたテーマと細かな内容をまとめたものを示す。

「工作系」の地域塾は8事例あり、地域塾の系として取り扱い易いものであるかと思われる。テーマも様々で普段触れる機会の少ないテーマを取り扱うものも見られる。

一方、「運動系」「音楽系」に関しては現時点で比較的行われる機会も少なくテーマの選定に関して難しい系であるが、幅の広がりそうな系でもあるため今後に期待できる部分である。

3) 系ごとの典型

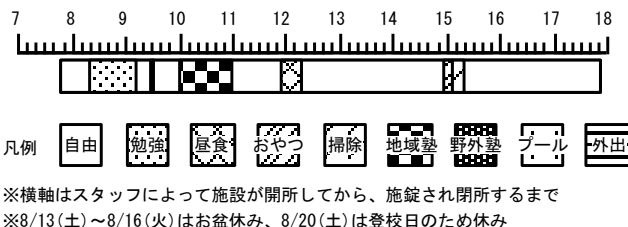


図3 1日の典型タイムスケジュール

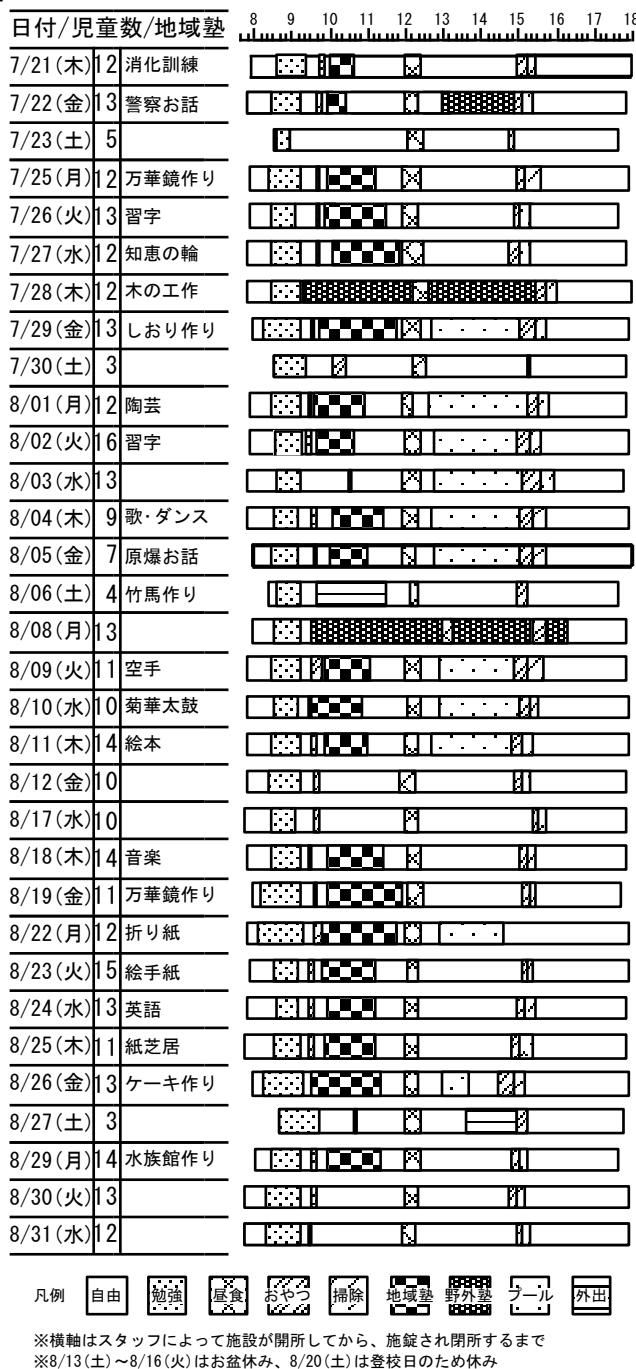


図4 夏休み全日程タイムスケジュール

「お話し系」の典型事例と児童の来所から昼食までの午前中の流れをまとめたもの、他5つの系の典型事例を「プロットされた

表2 地域塾の分類

系	タイトル	内容
お話系 (4)	おまわりさんのお話	交通安全・夏休み過ごし方のお話
	原爆のお話	原爆の紙芝居
	絵本の読み聞かせ	間違い探し/ミニゲーム/紙芝居
	校長先生による紙芝居	紙芝居/算数の問題
勉強系 (3)	消化訓練	消化訓練/消防車・救急車の見学
	習字	習字の練習・清書
	英語に親しむ	英語(発音中心)の勉強
工作系 (8)	万華鏡作り(1)	万華鏡/紙飛行機/紙鉄砲
	万華鏡作り(2)	万華鏡作り
	国体用のしおり作り	しおり作り
	陶芸	お皿の陶芸
	折り紙工作	折り紙で工作
	絵手紙作り	絵手紙作り
	誕生会ケーキ作り	ケーキ作り/おやつ時誕生会
音楽系 (3)	歌とダンス	講師の先生の世間話/歌/踊り
	菊華太鼓	太鼓体験
	音楽に親しむ	楽器と歌
運動系 (2)	人間知恵の輪	体操/体で・針金で知恵の輪
	空手	空手
野外塾 (2)	木の工作	下駄作り/川遊び
	竹馬作り	竹馬作り/川遊び

平面図「写真」「時間の経過」「場面の説明」をまとめた図(図 5～10)と共に見ていく。野外塾は施設を離れて活動するため行われている場所の図面を示し様子を記述する。

(1)お話系地域塾「おまわりさんの話」及び午前中の使われ方  
来所してから 8:30 までの間は自由時間となっており遊びの種類によって活動場所が分かれている(図 5-A)。勉強は多目的室で行われるため活動が自由時間へと移る際も、勉強を続ける児童と遊びはじめる児童とで活動が混ざり合うことがない(図 5-B)。おやつも多目的室で摂られる、この間に児童のいなくなったプレイルームに地域塾の準備が行われる(図 5-C)。地域塾はプレイルームで行われるが、机を並べても児童が席に着ける広いスペースが確保されている(図 5-D)。地域塾が終了すると昼食までの間は自由時間となるが、児童は多目的室や屋外で遊びを始め、地域塾の片づけが終わるとプレイルームでの遊びも始まる(図 5-E)。昼食はおやつ時同様多目的室で摂られる(図 5-F)。

(2)勉強系地域塾「習字」での使われ方  
地域塾の様子を、図 6 に示す。机配置はお話系地域塾と同じように行われており、児童は各々の席で作業をする。机間はスタッフ・講師が児童の作業を見て回れるだけの幅を確保しており、室の開いた場所には児童が書いた作品を並べていけるだけのスペースを確保できる。

(3)工作系地域塾「陶芸」での使われ方  
地域塾の様子を図 7 に示す。勉強系同様机間はスタッフ・講師が巡回できる幅が確保されている。スロープ部分には準備物を置けるスペースが確保されており、室内を広く使う事が出来る。

(4)音楽系地域塾「菊華太鼓」での使われ方  
地域塾の様子を図 8 に示す。プレイルームは作り付け家具も

図5-A 児童来所時(08:15) 図5-B 勉強時(09:00)

07:50 スタッフが出勤し、おまわりさんのお話の準備を始める。  
07:54 1人のお話を終え、早い児童はこの時間に入浴しトイレやお水を済ませビデオを観、空を眺めたりお話をしたりしている児童が居る。  
08:30 三コーナーでは3人の児童がテレビ、倉口は2人の児童がビデオ、3人の児童がスタッフと交際している。  
08:30 勉強がはじまるまでの間に児童が生活している。  
08:30 勉強がはじまる。この間に児童が生活し、スタッフは児童の人数に合わせおやつを摂る。  
09:15 45分間の勉強の時間としており、時間が経るとスタッフにチェックを入れ勉強を止める。  
09:17 勉強の終わった児童が居るが、勉強を止めていない児童はいるため倉口はスタッフが児童により禁止されている。  
09:17 スタッフ人口が居る。スタッフの人数は児童と関係なく居ており、2人口は09:00勉強と比べている

図5-C おやつ時(09:40) 図5-D 地域塾時「お話系」(10:00)

09:35 スタッフがおやつを摂る。  
09:40 スタッフが自由に遊ぶ。児童は手を洗い入室し、5分程度で食べ終わり、この間に多目的室でプレイルームへおやつ前の遊びを始める。  
09:45 スタッフがおやつ片づけと、勉強の準備に居る。片づけが終わると地域塾の準備を始める。  
09:58 地域塾の準備がはじまる。スタッフが居るプレイルームへと移動し、倉口に居る上の子児童、児童はスタッフに促されるおまわりさんのお話を聞く。  
10:00 はじめの準備の準備がはじまる。児童が居る。  
10:14 勉強が完了し、児童が居る。  
10:30 勉強が終わる。児童の人数をスタッフの人が把握し、残り児童の人数を把握しておやつを摂る。予て居る児童はそのままおやつを摂る。

図5-E 地域塾終了後(10:40) 図5-F 昼食時(12:00)

10:30 スタッフは地域塾で居る児童が居る。おやつを摂る児童は3人がプレイルームで遊ぶ。倉口はプレイルームでは2人がビデオ、スタッフを交際する2人がおやつを摂る。残り児童は屋外で遊びを始めており、スタッフが1人見守りとして児童と一緒に屋外へ出ている。  
12:00 スタッフが昼食を摂り、児童が居る地域塾が居る。

図5 地域塾「お話系」を含めた午前中の過ごし方の典型例





図6 勉強系「習字」 7/26

なく太鼓を十分に並べられる広さがある。又、搬入に際しても西側開口部は全開放も出来るため、太鼓のように大きな物も容易に運び入れることが出来る。

(5)運動系地域塾「人間知恵の輪」での使われ方

地域塾の様子を図9に示す。家具配置等行わない、かつ段差や障害物も無いため広く室を使用出来ており、走り回ることも可能となっている。

(6)野外塾「竹馬作り」の昼食までの様子

活動の様子を図10に示す。室内では出来ない広いスペースを要する竹馬作りを行っている。大きな木の木陰で暑さをしのぐことも出来ており、野外での活動も不自由なく行われている。

5. まとめ

- (1)全 32 日の開所日の内 23 日間地域塾が行われており、児童は毎日退屈することなく夏休みを過ごすことが出来る。
- (2)地域塾のテーマは 6 つの系に分類され、地域のボランティアの参加を得て、幅広いテーマが設定されている。
- (3)午前中の過ごし方・各系の地域塾の典型例を見ると、2 室 3 領域型の構成により、勉強・おやつ・昼食と地域塾の空間は明瞭に区分されており、かつ両室は隣接・連続していることから、各行為はスムーズに展開している。

午後の活動を含む詳細の報告は今後行っていく予定である。

参考文献

1)宮本文人・岩淵千恵子:学童保育施設における活動機能と平面構成,日本建築学会計画系論文集,No.618, pp.25-31,2007.8  
 2)中園真人・山本幸子他 2 名:農家住宅納屋の学童保育施設への再生プロセス,日本建築学会計画系論文集,No.658, pp.2925-2932,2010.12  
 3)清水肇・小野尋子:学童保育施設の生活空間構成の実態,日本建築学会計画系論文集,No.668, pp 1799-1806,2011.10



図7 工作系「陶芸」 8/1



図8 音楽系「菊華太鼓」 8/10



図9 運動系「人間知恵の輪」 7/27

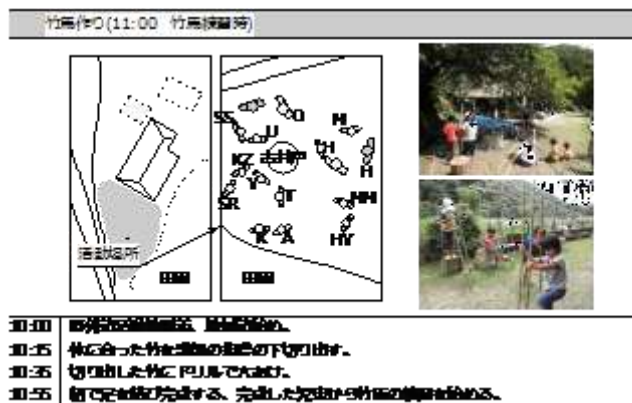


図10 野外塾「竹馬作り」 8/8

\* 山口大学工学部感性デザイン工学科 学部生

\*\* 山口大学大学院理工学研究科 修士課程

\*\*\* 山口大学大学院理工学研究科 助教・博士(工学)

\*\*\*\* 山口大学大学院理工学研究科 教授・工博

\* Undergraduate, Dep. of KANSEI Design Eng., Faculty of Eng., Yamaguchi Univ.

\*\* Graduate Student, Graduate School of Science and Eng., Yamaguchi Univ.

\*\*\* Assistant Prof., Graduate School of Science and Eng., Yamaguchi Univ., Dr. Eng

\*\*\*\* Prof., Graduate School of Science and Eng., Yamaguchi Univ., Dr. Eng